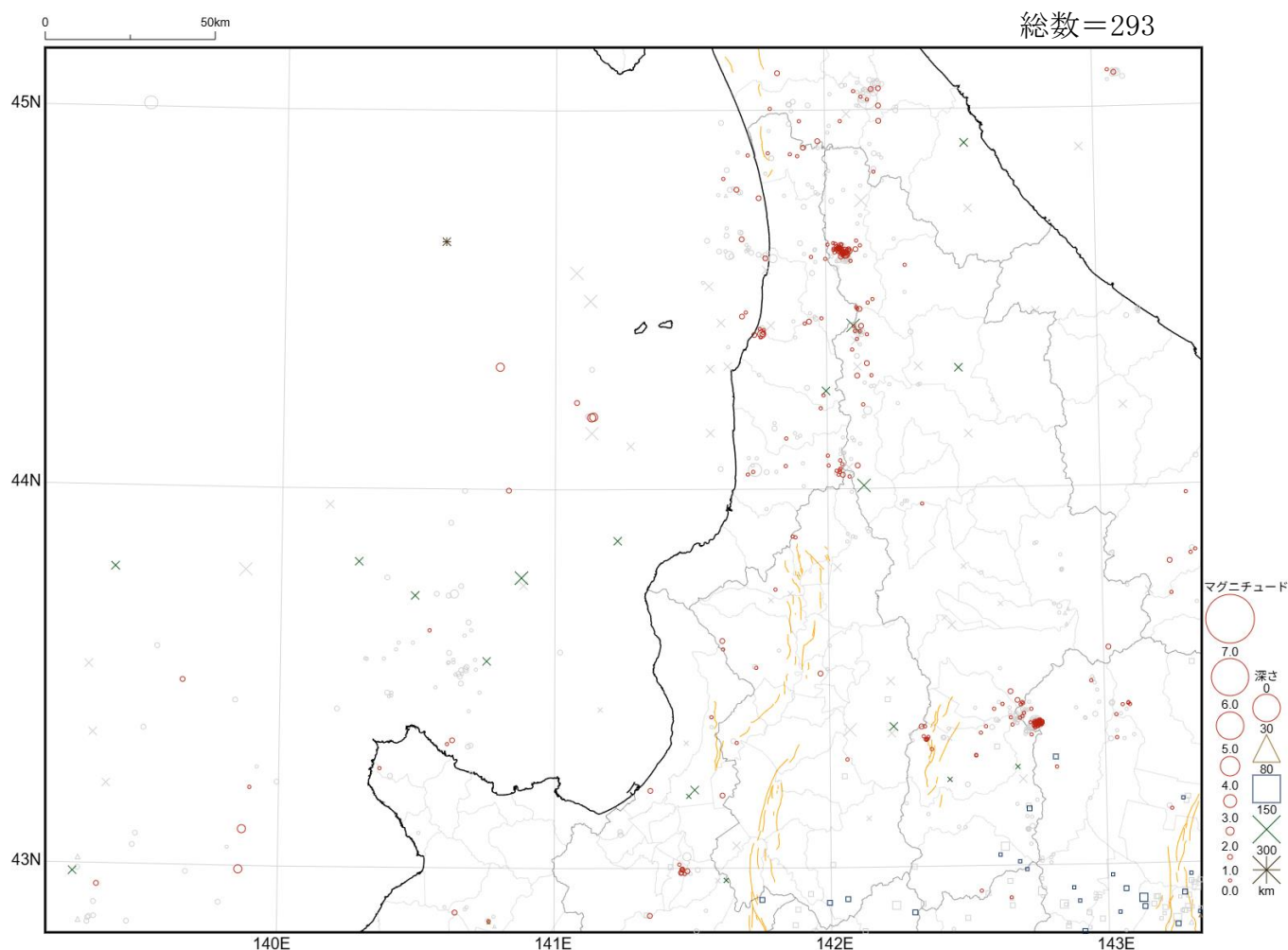


上川・留萌地方の地震活動図

2026年8月

旭川地方気象台

震央分布図



- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年8月）

この期間、上川・留萌地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回（7月は2回）でした（「上川・留萌地方で震度1以上を観測した地震の表」参照）。

1日11時48分、青森県東方沖の地震（M5.7、深さ73km、震央分布図の範囲外）により、富良野市、南富良野町、占冠村で震度1を観測しました。

2日23時49分、日高地方東部の地震（M4.9、深さ51km、震央分布図の範囲外）により、南富良野町で震度1を観測しました。

23日22時44分、浦河沖の地震（M6.0、深さ41km、震央分布図の範囲外）により、剣淵町、富良野市、中富良野町、南富良野町、占冠村、増毛町で震度2、和寒町、旭川市、美瑛町、上富良野町、留萌市で震度1を観測しました。

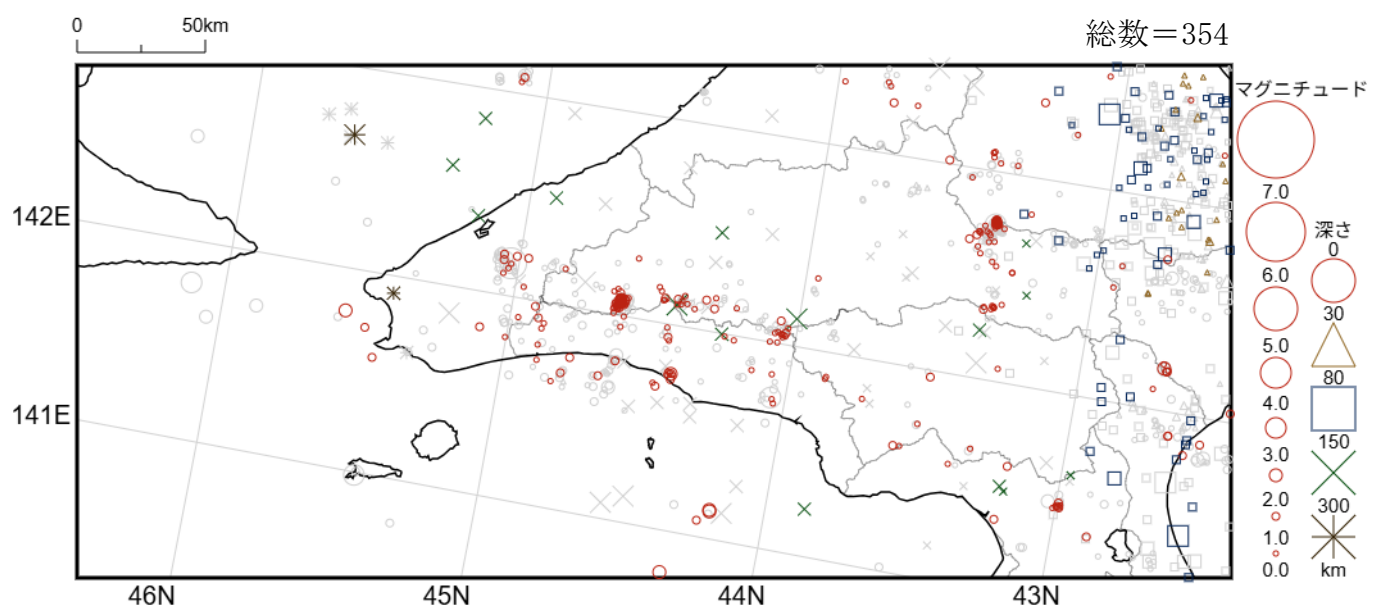
この活動図は、旭川地方気象台のホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/asahikawa/>

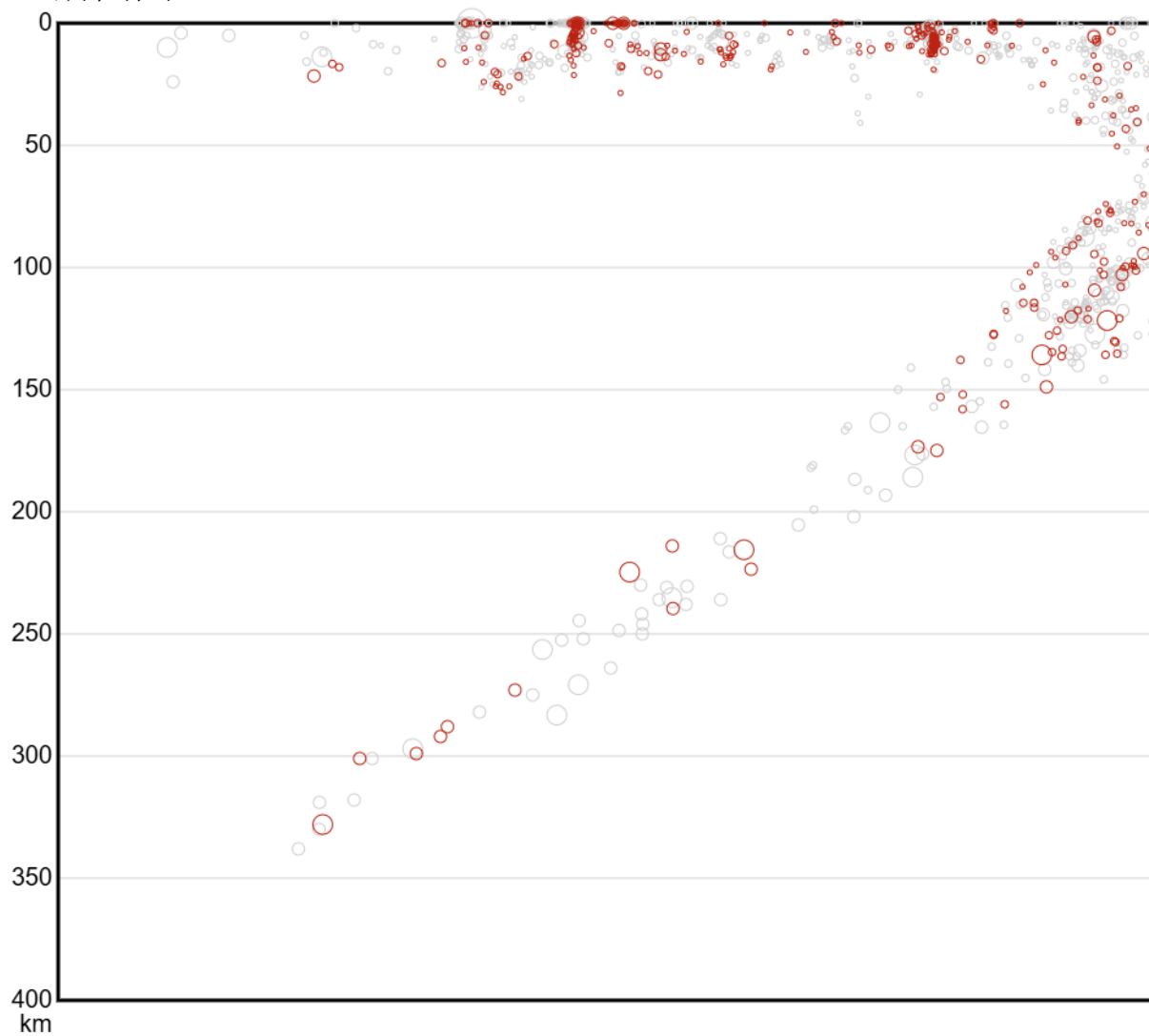
この資料に関する問い合わせ先 旭川地方気象台 TEL 0166-32-7102

2026年8月

震央分布図



断面図

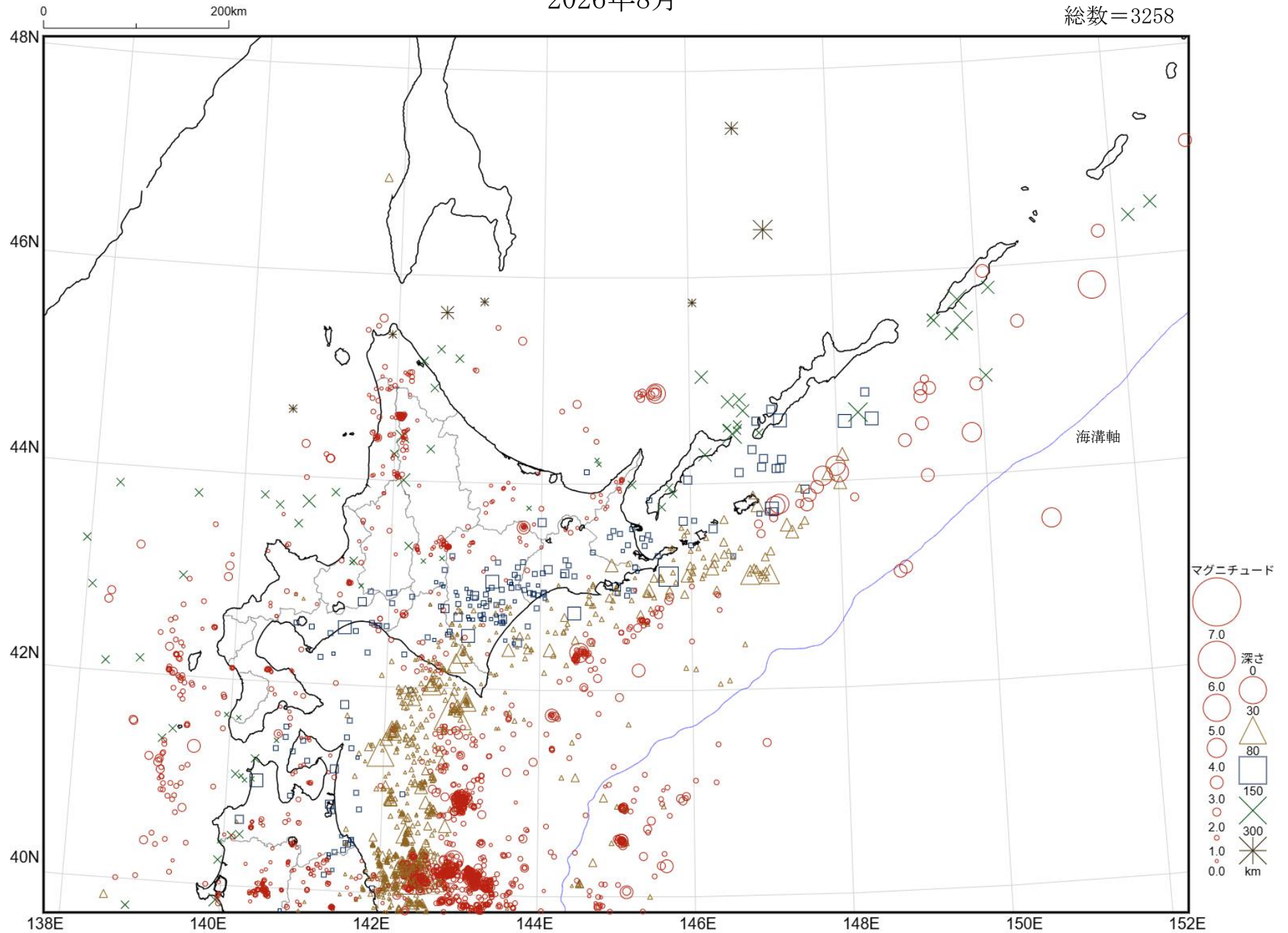


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年8月

総数=3258



上川・留萌地方で震度 1 以上を観測した地震の表 (2026年8月)

	年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯 (N)	東経 (E)	深さ (k m)	規模 (M)
1	2026年 8月 1日 上川地方	11時48分 震度 1	青森県東方沖 富良野市若松町 (05)	41° 21.6′ N	141° 57.3′ E	73 k m	M5.7
2	2026年 8月 2日 上川地方	23時49分 震度 1	日高地方東部 南富良野町役場* (05)	42° 20.6′ N	142° 59.0′ E	51 k m	M4.9
3	2026年 8月23日 上川地方	22時44分 震度 2 震度 1	浦河沖 剣淵町仲町* (16) 富良野市若松町 (17) 富良野市末広町* (16) 中富良野町本町* (21) 南富良野町役場* (15) 占冠村中央* (17) 和寒町西町* (07) 旭川市 7 条* (09) 美瑛町本町* (07) 美瑛町忠別* (14) 上富良野町大町 (10) 南富良野町幾寅 (12)	41° 46.9′ N	142° 52.4′ E	41 k m	M6.0
	留萌地方	震度 2 震度 1	増毛町見晴町* (15) 留萌市幸町* (08) 増毛町岩尾* (10)				

* のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
() 内の数値は0.1単位の詳細な震度 (計測震度) の小数点を省略して表しています。

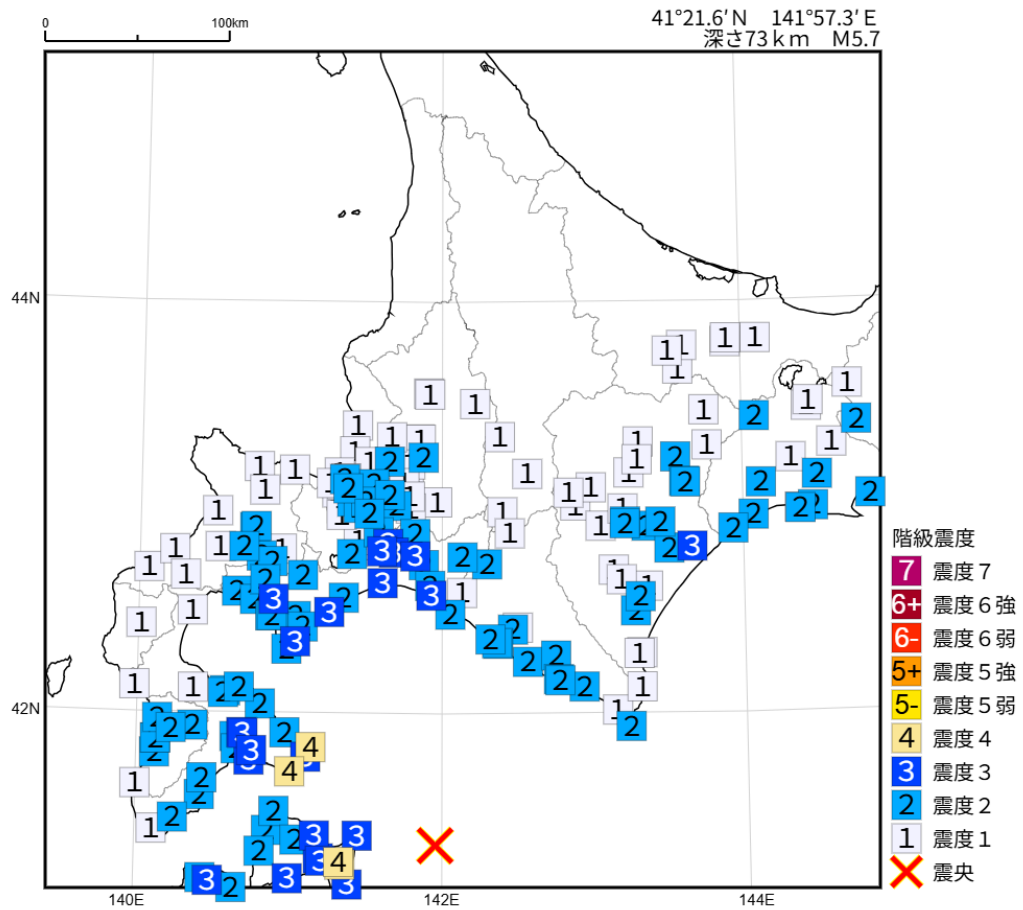
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7

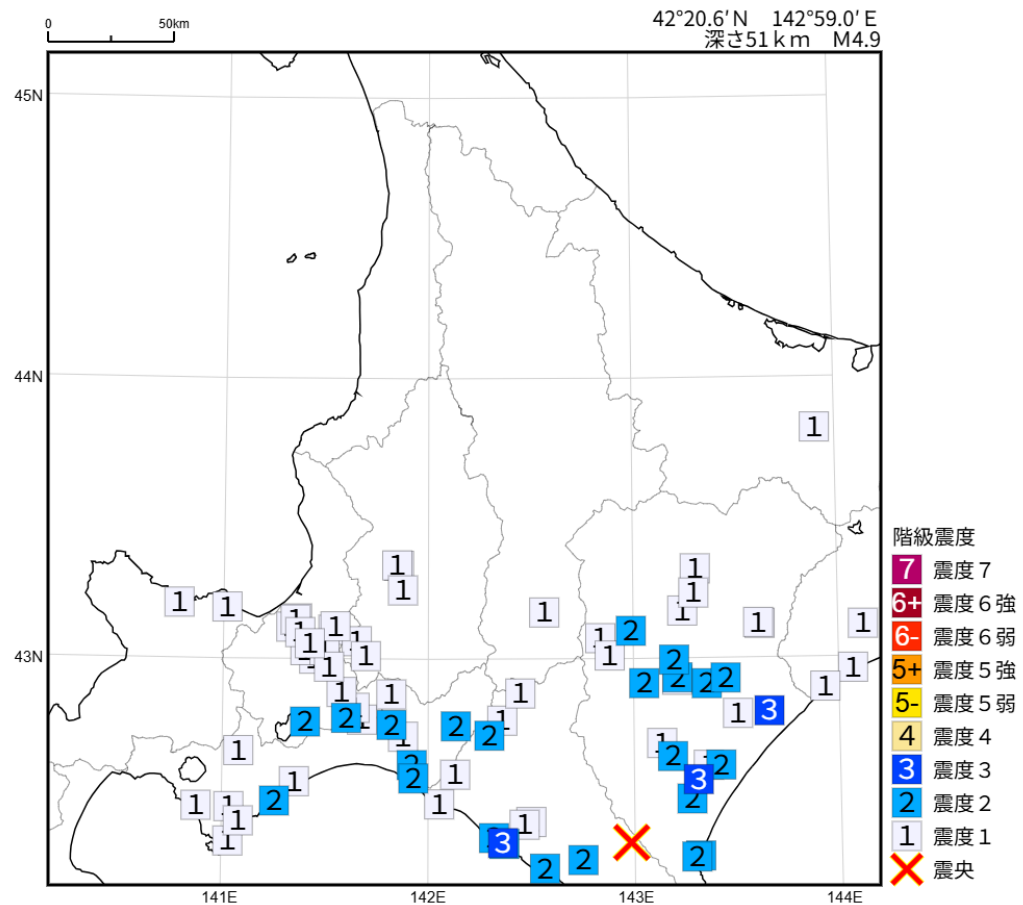
本資料の利用にあたって

- ・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (よしが浦温泉、飯田小学校)、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点 (平島、小宝島)、EarthScope Consortium の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

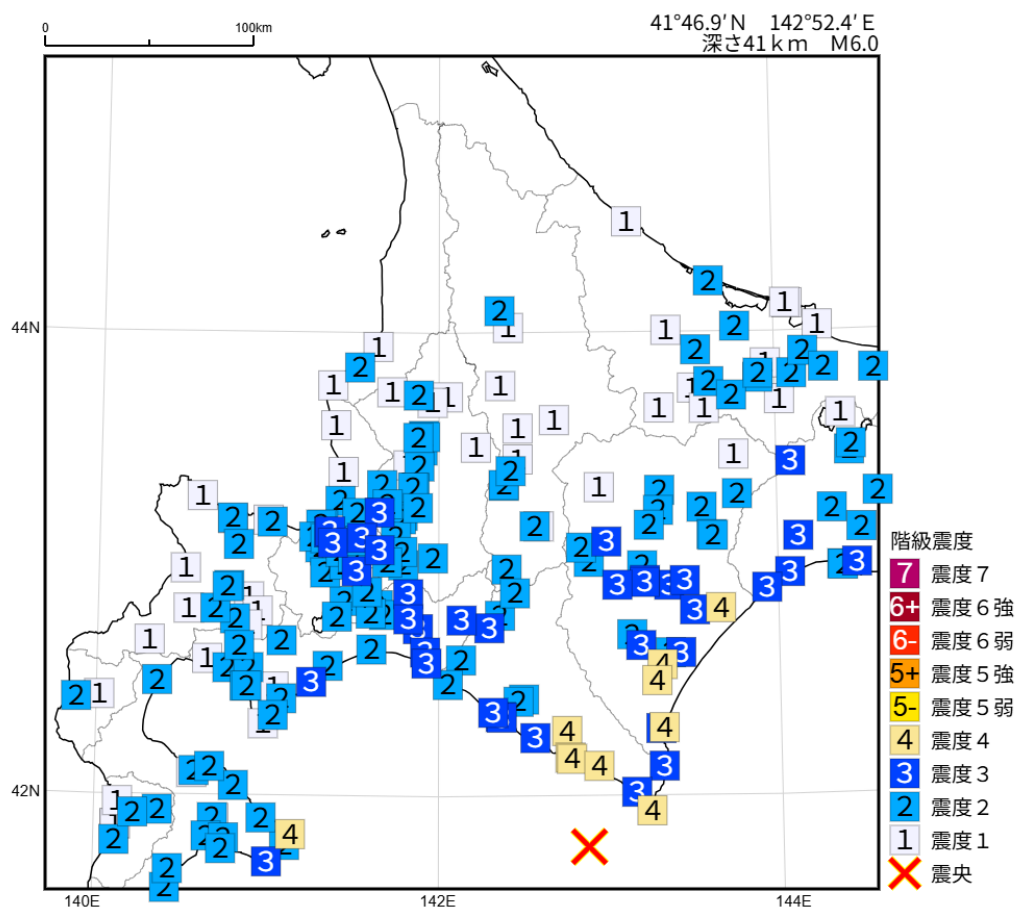
2026年 8月 1日 11時48分 青森県東方沖の地震の震度分布図



2026年 8月 2日 23時49分 日高地方東部の地震の震度分布図



2026年 8月23日 22時44分 浦河沖の地震の震度分布図



【防災メモ】

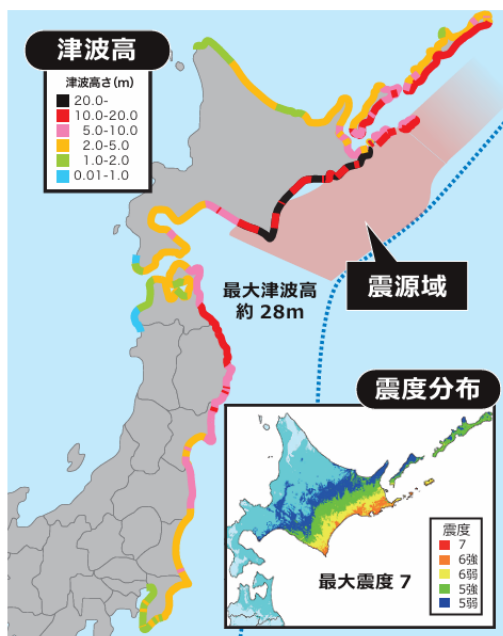
～千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震と 「北海道・三陸沖後発地震注意情報」～

○千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震

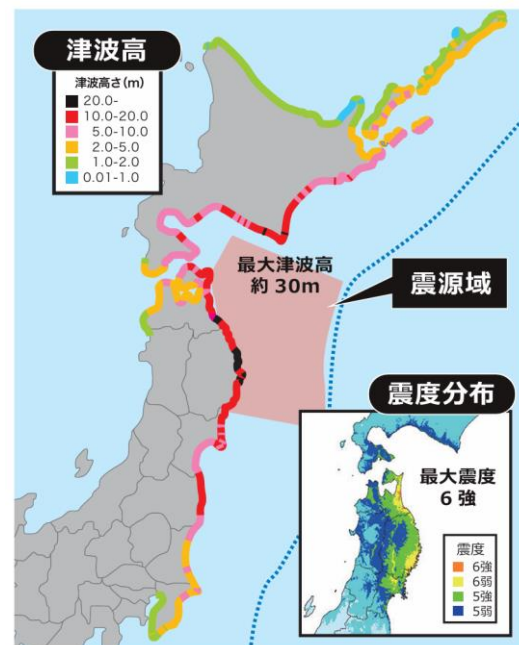
千島海溝・日本海溝沿いの領域では、過去に大きな津波を伴う巨大地震が繰り返し発生しています。津波の痕跡調査から、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の領域では、平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の大津波に匹敵する最大クラス津波を伴う巨大地震が約 300～400 年間隔で発生したとされており、17 世紀に発生した大津波からの経過時間を考えると、最大クラスの津波を伴う次の巨大地震が切迫していると考えられています。

2021 年 12 月に内閣府が公表した被害想定では、この巨大地震・大津波が発生すると、死者数は全国で最大約 19 万 9 千人と想定されています。特に冬季に発生した場合、北海道では吹雪や積雪により避難に時間を要することや、屋外や寒い屋内での避難は低体温症のリスクが生じるといった積雪寒冷地特有の課題があります。ただし、事前の備えと迅速な避難を行うことで人的被害を大きく減らすことができるとされています。

千島海溝沿いの地震



日本海溝沿いの地震



千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震で想定される津波と震度

○北海道・三陸沖後発地震注意情報

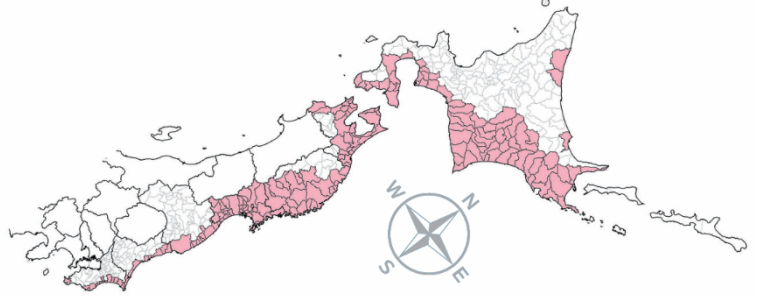
千島海溝・日本海溝沿いの領域ではモーメントマグニチュード (Mw) 7 以上の地震が発生した後、数日程度の短い期間においてさらに大きな Mw 8 クラス以上の巨大地震が発生する事例が確認されています。このような事例は、世界的には 100 回に 1 回程度で、実際に発生する確率は高くありません。しかし、一人でも多くの命を守るため、北海道の根室沖から東北地方の三陸沖の巨大地震の想定震源域およびその周辺で Mw 7 以上の地震が発生した場合に、続いて発生する巨大地震（後発地震）への注意を促す「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表します。この情報は 2022 年 12 月から運用を開始しており、これまでに、昨年 12 月の青森県東方沖の地震と今年 4 月の三陸沖の地震の発生に伴い発表されています。

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表された場合に防災対応をとるべきエリア

北海道から千葉県にかけての広い範囲に及びます。

防災対応をとるべきエリアの基本的な考え方

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上の地域
- 地震防災対策の一体性から、防災対応をとるべきと考える地域



北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時に防災対応をとるべき地域

この情報が発表された場合、直ちに避難をする必要はありませんが、防災対応をとるべき市町村にお住まいの方は、普段の生活を続けた上で、1週間程度は地震への備えの再確認、例えば家具等の固定、備蓄品の確認、避難場所・避難経路の確認、家族等の連絡方法の確認、また、津波浸水想定域にお住まいの方は、大きな揺れを感じたり津波警報を見聞きしたりした際に、すぐ避難できるような態勢を整えておくようにしましょう。また、防災対応をとるべき地域以外であっても、強い揺れや高い津波が生じる可能性はありますので、情報が発表された際には、平時からの地震への備えを再確認するなど、個々の状況に応じて後発地震に備えた対応をとることが重要です。

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。



北海道・三陸沖後発地震注意情報発表時の防災対応

○WEB サイト

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」(札幌管区気象台 HP)



<https://www.data.jma.go.jp/sapporo/jishin/kouhatsu.html>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」普及啓発用動画(YouTube)



<https://youtu.be/Z3Zou0Z70V4>

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」子供向け動画(YouTube)



<https://youtu.be/ifDGXKntUik>